

令和3年度 墨田区立 小梅小学校 経営報告書

令和4年 3月 8日

学 校 目 標	○深く考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子
目 指 す 学 校 像	小梅小学校に関わる人にとって「魅力ある学校」を創造する ○子供が、自分の成長を感じる学校 ○教職員が、学び続ける学校 ○保護者が、安心・安全に思い通わせたい学校 ○地域が、誇りに思える学校
目 指 す 子 供 像	○よい習慣（生活・学習・運動）をみにつけた子
目 指 す 教 師 像	◎児童とともに「明るく元気で爽やかに」毎日を送ることができる 小梅小学校の 教師集団 をめざす ① 45分間の授業を毎時間大切にし、今日を充実して生きる 今日師 ② 児童の心により添い、思いを受け止め心を開き、気持ちを通じ合わせられる 響師 ③ 毎日の児童の成長を、地域住民・保護者とともに喜び、ともに歩み続ける 共師 ④ 教育公務員として信念をもち、責任ある行動を取り、高く強い志をもった 強師 ⑤ 学校運営を常に自己の課題として受け止め、組織の一員として力を合わせられる 協師 ⑥ 1日1日の指導を振り返り、確実に自己を高め努力し、児童の手本となれる 鏡師 児童・保護者・地域住民から慕われ尊敬される 教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
各教科等指導	学校は、子供に確かな学力を育てるために、分かりやすい授業の実施に努めているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「基礎・基本の確実な習得」を図るには繰り返し学習が必要である。学力向上タイム、振り返り期間（9月・3月）は学力向上のための重要な取組と捉え、全クラスで実施する。 ・教員の資質能力向上のため、校内研究やOJT等での充実した研修を行っていく。 ・学力向上の取組（校長講話作文、俳句作り、朝学習、家庭学習、放課後学習）は、来年度も丁寧に取り組んでいく。 ・「小梅学習スタンダード7」を見直した。家庭と共有しながら内容の徹底を図る。 	A	A
	学校は、特別な支援を必要とする子供に対して、組織的に適切な支援を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援コーディネーター・養護教諭・特別支援教室専門員・巡回指導員・SCとの情報交換・協議を密に行い、個に応じた適切な指導ができるようにする。 	A	A

様式 4

			<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援委員会を年3回、特別支援教育の研修を充実させ、教職員の資質能力の向上を図る。 ・毎週金曜日を定例会と位置付け、SC、特別支援教室専門員を交えて情報交換を行うとともに、同一歩調での指導を徹底する。 		
	学校は、子供の将来の自立に向けた進路指導・相談活動に取り組んでいるか。	C	<ul style="list-style-type: none"> ・感染防止に努めながら、幼保小中一貫教育の推進のための更なる工夫が必要である。 ・年間通じて、夢や目標をもつことの大切さを講話等で伝えたり、実現のために努力している子供を褒め称えたりして自尊感情や自己肯定感を醸成していく。 	B	C
	学校は、教員の指導力・授業力を高めるために組織的に取り組んでいるか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究（研究授業3回）、授業観察（3回）を通して、授業力を高めるための研究や指導を行っていく。 ・タブレット端末の効果的な活用方を校内で共有し、全クラスが有効な活用ができることを目指す。 ・計画的なOJT（年10回以上実施）や指導教諭の授業参観、区小研を通して指導力の向上に努める。 	B	B
	道徳授業の充実に努めているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・週の指導計画を通して、年間35時間の道徳の時間を大切に指導していく。 ・道徳主任によるミニ研修会を年3回実施し、授業・評価の向上を目指す。 	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	<p>学力向上の取組を全校で取り組んでいることが学力向上に繋がっている。DE層への児童には、放課後学習等で「できた・分かった」と満足感が味わえるような指導を期待したい。特別な支援を必要とする子供に対しての組織的な支援は引き続き丁寧に行っていただきたい。</p>			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
生活指導等	学校は、子供の問題行動の予防や解決に組織的に取り組んでいるか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートを年2回実施し、早期発見に努める。 ・「トラブルの原因や背景、児童からの聞き取り、児童相互の言い分等を正確に聞き取る」「今後の学校の対応の仕方等、保護者に納得のいく説明を行うこと」以上のことを学年（複数）で確実に対応する。 ・困難な課題については管理職に相談し、その日の内に保護者に伝えることを原則として、迅速に対応していく。 ・校長講話、学校だより、いじめ防止授業地域公開講座等、保護者向けの「いじめ防止に向けた学校の取組」を年間3回以上発信し、いじめに対する取組の理解・協力を得る。 	A	A
	学校は、子供が基本的な生活習慣を身に付け、望ましい人間関係を作るための心の教育を行っているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣「4つのあ（挨拶・集まり・後片付け・安全）」の確立のために、全教職員が同一歩調で確実に指導していく。 ・今年度は、ICT機器を活用しての交流になってしまった。来年度は、人間関係構築のため、縦割り班活動や異年齢交流の活動ができるようになることを期待したい。 	B	C
	学校は、子供の安全を確保するための取組を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染拡大防止のために「学校の新しい生活様式」の徹底を図り、子供の安全を守ることができた。 ・「人権プログラム」「安全プログラム」「いじめ防止プログラム」「使命を全うする」を随時活用し、組織的対応を原則としていく。 ・年間11回の避難訓練を行うとともに、緊張感をもって取り組めるようにする。 ・朝の会・帰りの会での「一声指導」を実施していく。 ・自然災害が多発する日本の現状を踏まえ、「自分の命は自分で守る」体験を、地域・PTAと連携をとりながら実施していく。 	A	A
	学校は、子供や保護者からの意見や要望を把握し、教育活動の点検や改善に役立っているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・前後期実施の保護者からの学校評価を受けて、肯定的な項目はさらに強化できるように、否定的な項目に関しては解決策を講じて、紙面と保護者会で説明していく。 ・保護者からの自由記述への丁寧な回答に努める。 	B	B

様式 4

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
	学校関係者評価委員会の意見等	「安全・安心」を踏まえた経営方針が徹底されている。新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着いたら、来年度は、地域・保護者と連携した防災教育の推進に努めてほしい。			
学校の管理運営	学校は、管理職の経営方針に基づき、組織的な教育活動・学校運営を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「よい生活の習慣化」「安心・安全」を基調とした学校運営を、教職員間で共通理解を図りながら推進していく。 ・様々な機会を繰り返し、教職員・保護者・地域に対し経営方針を周知していくようにする。 	A	A
	学校は、子供の実態に合わせた具体的な目標の設定及び評価を適切に行っているか。	B	<p>【学力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「各教科における思考力・表現力の育成～主体的・対話的な学びを通して深い学びにつなぐ～」をテーマに研究に取り組んだ。今年度も十分な校内研究ができなかったのは残念である。タブレット端末を活用した、主体的で対話的な学びの実現に向けての授業改善に努めていく。 <p>【体力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動不足が原因で、骨折する児童がいた。感染症予防に努めながら、運動不足解消のための策を講じていく。 ・「一学級一取組」「体力向上タイム」の充実に努める。 	B	B
	学校には、適切な教育活動が行える環境・設備等が整えられているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の ICT を活用した授業展開も日常化している。また、一人一台タブレット端末が効果的な学習の道具となるように研修を充実していく。 ・今年度は、図書館地域ボランティア「うめのみ」による動画での読み聞かせを行ってもらった。子供たちは楽しみにしており、引き続きお願いしていきたい活動である。 ・今後学級増により多目的室などを教室に変えていくようになる。先を見通した、効果的な教室の配置計画をしていく。 	B	B
	学校関係者評価委員会の意見等	「よい生活の習慣化」「安心・安全」に向けた具体的な策を講じて、来年も重点的に取り組んでいただきたい。校長のリーダーシップに期待したい。			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
家庭・地域連携	学校は、教育方針や日常の教育活動の様子などを分かりやすく伝えているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・分散型方式で、2年ぶりに授業参観を1回実施できた。学校での様子が分かり安心したという保護者からの声を聞いた。 ・ホームページや Facebook の更新・学校だより・保護者会の内容の充実・正門掲示板の更新等、教育方針や日常の教育活動の様子などを分かりやすく発信するための工夫を更に行っていく。 ・感染症に関する対応などを COC00 学校連絡を活用して適度に配信し、学校情報・児童の安全情報を保護者に迅速正確に伝えることができた。保護者からの苦情・要望は無かった。 	B	B
	学校は、保護者や地域の理解や協力を得て教育活動を進めているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であっても、「子供は楽しく学校に通っている」というアンケート項目に対して、94%の保護者が肯定的な意見であった。保護者の理解・協力があつての結果である。協力・理解をいただいていることに感謝を伝えていく。 	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	子供たちのために、学校・家庭・地域が連携して取り組める体制を更に推進していただきたい。			

様式 4

2 令和3年度学校評価のまとめ

コロナ禍であっても、「子供は楽しく学校に通っている」というアンケート項目に対して、94%の保護者が肯定的な意見であった。学校に対する信頼はかなり厚く、その信頼に応えられる教育を推進していかなければならない。子供・保護者と地域・教職員ともに「三方よし」の評価を目指して、開かれた学校と家庭・地域との連携を大切にしながら質の高い教育の推進に邁進していきたい。

以上の通り報告いたします。

墨田区立 小梅小学校 校長

荒井 令子

公印